

茨城県沿岸における海草エビアマモの分布

中庭 正人

(茨城県立教育研修センター)

はじめに

筆者は、1961年より茨城県沿岸の海産植物の生態・分布の調査を行っている。

調査結果(1975・'77・'81・'83)は報告した。本会報に報告(1983)した、太平洋沿岸におけるスガモ属2種の南・北限地における生態では、暖海系植物のエビアマモ(*Phyllospadix japonicus* MAKINO)の北限地が伊師浜(茨城県多賀郡十王町)であることを報告した。また、調査13地域のうち4地域にしか生育せず、個体数も限られていると報告した。

本報告では、エビアマモの新産地と、茨城県沿岸における分布と生態について述べる。

本稿作成にあたり、ご指導をたまわった茨城県立教育研修センター、第二研修課長柳橋弘明、同センター、所長毛利方雄の各先生にお礼申し上げる。

1. 生育地域の概要

(1) 伊師浜

茨城県の北部に位置し「常陸国風土記」にも、海の幸の豊富なところと記録されている。

海蝕崖が波打ちぎわまでせまり、狭い砂浜がある。岩礁は干潮時でも露出するものはなく、低潮線下にある。海況は太平洋の荒波を受ける地形のため、外洋性である。

(2) 小貝浜

伊師浜のすぐ南にあり、海蝕崖と狭い砂浜がある。岩礁の一部は干潮時には露出する。露出しない岩礁は平板状で伊師浜よりは浅く、ほぼ低潮線付近のところに多い。海況は強い波浪を受け、外洋性である。

(3) 高磯

小さな岩礁地であるが、岩礁は飛沫帯より低潮線下まで垂直に分布している。海況は強い波浪を受け、外洋性である。

(4) 平磯

茨城県沿岸で最も岩礁の発達したところであり、飛沫帯より低潮線下まで多くの岩礁が平板状に沖に向かって広がり、大小のタイドプールがある。海況は全般に外洋

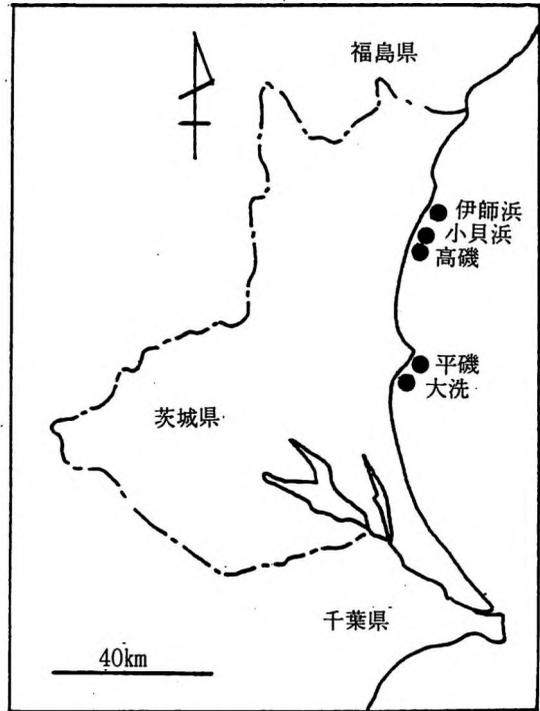


図1 茨城県沿岸のエビアマモの分布

性であるが、茨城県の天然記念物となっている、中世代の白亜紀層が発達しているあたりは、波浪を幾分かきけるところがある。

(5) 大洗

飛沫帯より低潮線下まで、多くの岩礁が発達している。また、大きな岩礁には大小多数のタイドプールが発達している。海況は外洋性であるが、複雑に点在する岩礁に囲まれた地点では、幾分波浪が弱まるところがある。

2. 分布と生態

海産植物の地理的分布を決定する主な要因には、海流がある。

茨城県沿岸は、太平洋沿岸を洗う二大海流の黒潮と親潮が交錯する水域である。そこで海産植物の海藻でも、多くの南・北限種が生育している。

エビアマモの北限地の伊師浜より南の小貝浜(日立市)、高磯(日立市)、大洗(東茨城郡大洗町)にも生育地がある。また、1985年6月4日に、大洗の北隣りに位置する平磯(那珂湊市)で生育するのを確認した。これは5番目の生育地である。

北限地の伊師浜では、生育地点は4ヶ所ありそのいずれもが低潮線下である。エビアマモの個体数の多い大洗や銚子半島(千葉県)では、潮間帯下部に生育帯がある。

小貝浜では、スガモ群落が平板状に広がる低潮線付近の岩礁に広がる。エビアマモは、スガモ群落の間にわずかに2地点あるのみである。個体数は数株である。

高磯では、低潮線付近に1地点でみられる。個体数も少ない。

大洗では、2地点でみられる。そのうちの1地点は、波浪を直接受ける潮間帯下部の棚状の岩礁上にエゾシコロと混生して、帯状分布している。茨城県沿岸としては、めずらしく個体数も多い。これより北にある岩礁にもみられる。平板状の岩礁上で、1㎡の斑状分布している。付近にはスガモ群落が多い。

新産地の平磯では、2地点でみられる。いずれも低潮線付近のタイドプール中であり、2地点とも個体数は少なく数株である。

茨城県沿岸にみられる海草は、エビアマモとスガモの2種である。岩礁の発達している海岸であればどこでもスガモ群落をみることができる。個体数も多い。

しかし、エビアマモは生育する地域は限られ、さらに個体数も少なく貧弱な群落しかみられない。

参考文献

中庭正人 1975. 茨城県沿岸の海産顕花植物の分布. フロラ茨城 68:1-3.

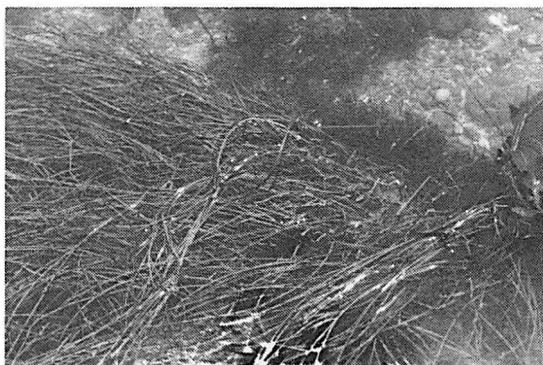


図2 平磯(那珂湊市)のエビアマモ

—— 1977. 「生物Ⅱ」生態分野への教材化のための茨城県沿岸の海草(顕花植物)の研究. 茨城県教育研究紀要 5:89-93.

—— 1981. 茨城県沿岸の海産植物. 「茨城県沿岸の海産植物」「茨城の生物(第2集)」茨城県高等学校教育研究会生物部 52-68.

中庭正人・小高利彦 1983. 太平洋沿岸におけるスガモ属2種の南・北限地における生態. 水草研究会報 14:9-11.

野沢治治 1974. 海の水草 遺伝 28:43-44.

—— 1981. 我が国における海草の分布. 植物と自然 15(13):15-19.

小高利彦・沼田 真 1979. 銚子海岸岩礁潮間帯における生物群集の帯状分布と遷移. 千葉大臨海研報告 11:17-35.

田中 剛・野沢治治・野沢ユリ子 1962. 本邦産海産顕花植物の分布について. 植物分類地理 20:180-183.

【編集後記】

今年もあとわずかで暮れようとしています。今年は天候のせい、水草の世界でもいくつかニュースがあったようです。ホテイアオイが各所で異常繁茂したこと、そして、この会報にも2篇の報告が寄せられているようにオニバスの久しぶりの当たり年であったらしいことなどです。関西地方でも、何年ぶりかに見るようなオニバスの大群生が何ヶ所かで見られました(他の地方は如何だったのでしょうか?)。この水草の将来が楽観できないこと

は事実ですが、今ならば手が打てるのではないかと希望のもてた年でもありました。

オニバスに限らず各地の水草の現況などをお知らせ願えたらと思います。別紙のとおり10周年記念号の発行は来年の後半に延期されました。3月号、6月号は通常どおり発行されます。ふるって御寄稿願います。

原稿の送り先 〒657 神戸市灘区鶴甲1-2-1
神戸大学教養部 角野康郎